

Dr. 中路の健やか通信 (其の33)

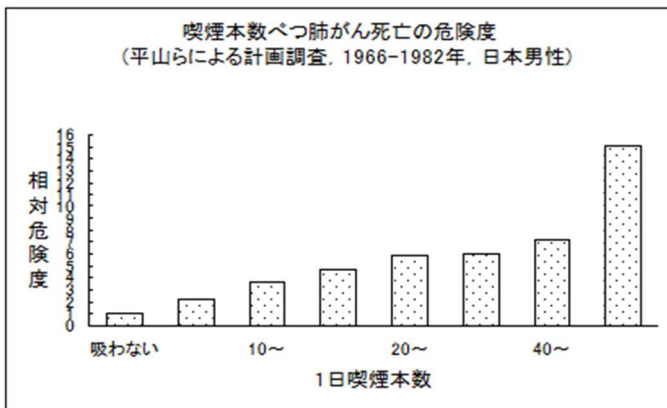
健やか協力隊長 中路



第33回 タバコと健康 (その2)

次はがんとたばこの関係について。

医学生は、動物に実験的にがんを作った東京大学の山極勝三郎、市川厚一博士のことを講義で教わります。両先生はウサギの耳に（コール）タールを長期間繰り返し塗り続け、世界初の人工がんを作りました。その時の山極博士の句が「癌出来つ 意気昂然と 二歩三歩」です。昔の方は実に風流です。この業績で山極博士はノーベル賞候補者となりました。このタール、たばこではおなじみの成分です。



少し古いですが、元国立がんセンターの故平山雄博士のデータを紹介します。図には非禁煙者に比べ、喫煙者の肺がん死亡のリスクが何倍かを示してあります。これをみると、喫煙本数が増えれば増えるほどリスクが増えています。「5本位ならば大きな害はないだろう」と考える方もおられるでしょうが、10本、20本よりはましなだけで、悪いことは悪いのです。

国立がんセンターが、わが国の3つの大きな追跡研究をまとめた分析結果（対象者数は約30万人、追跡期間は1980~90年代の約10年間）によりますと、毎日喫煙することによるリスクの増加は、たばこの煙が体へ入る順番に高くなっています。たばこの煙がいかに「悪さ」をしているかがよく理解できます。例えば、喉頭（のどぼとけの辺り）5.5倍、肺4.8倍、食道3.4倍などです。意外と知られていないのは、尿路（膀胱・腎盂・尿管）が5.4倍と高いことです。

少し大げさに言えば「たばこを吸わないと喉頭がんや膀胱がんにはかからない」とさえ言えそうです。しかもです。たばこと関係の深いこれらの場所のがんは「治療に苦労する」がんでもあります。喫煙と関連する代表的ながんである肺がんの5年生存率は現在でも30%くらいです。

たばこは、がん以外でも健康に多くの害を及ぼすことが分かっています。特に妊婦の喫煙は早産、低体重児出産、新生児死亡、乳児死亡の原因となります。また、いわゆる肺気腫・慢性気管支炎（最近ではCOPDと言います）で呼吸が苦しくなり、酸素ボンベを離せなくなる患者さんも、その大半はたばこが原因なのです。

このような科学的データを知ることは「たばこをやめよう！」と思い立つことに役立ちます。

